東北大学大学院　医学系研究科
医学統計学分野

2025/5/14（水）

抄読会（分野打ち合わせ）

少子高齢化社会における小児医療の現状と課題

博士課程 2 年目　田邊雄大

概要

昨今、急速に日本は少子化が進行している。合計特殊出生率（女性一人が人生で出産する人数）は 1.20 まで低下しており、政府は少子化対策を講じるものの、効果は得られていない状況である。しかし、これは日本だけの問題ではなく、国際的な問題であり、今後多くの国で人口は減少に転じると言われている。将来に渡って更に進行する少子化社会において、医療資源（病床数）をいかに適正に配分すべきかを検証するモデルを構築することを研究テーマに据えた。

今回は、博士課程 1 年目での進捗状況を主に報告した。今後の目標としては、悉皆性の高い NDB を用いた研究を目指しているが、まずが大まかな規模感と方向性を見定めるために、厚生労働省研究班の DPC データベースを用いて、小児入院医療の概略を検証した。「発熱性・感染性疾患」が 4 割ほどと頻度が多いものの、専門施設への集約割合は低いことが明らかになった。一方で、希少疾患などは専門施設への集約化が進んでおり、多くの疾患では症例数は、小児人口推移・出生数推移に似た変化を辿っていた。「発熱性・感染性疾患」は 2020 年前後で大きく減少しており、将来の医療資源配置に大きな影響を与えうると予想された。よって、NDB での研究では、「発熱性・感染性疾患」に限定して、悉皆性の高いデータを得て、医療資源予測モデルを考えたい。

今後は、具体的に NDB を用いた研究のための準備（申請準備、研究資金など）を進める予定である。研究の方向性などについて多くの意見をいただき、議論をさせて頂いた。